

江戸の浮世絵師「歌麿」と小江戸「栃木」を結ぶ 「三つの縁(えにし)」

縁その1 肉筆画の大作。しかも三幅。
通称「雪」「月」「花」を栃木の豪商が所蔵していた。

縁その2 歌麿の絵には、栃木の狂歌師の名前が
数多く登場する。

縁その3 栃木市内で歌麿の肉筆画が連続して発見される。

歌麿と栃木の狂歌師の接点

江戸に狂歌の文化が花開いた天明・寛政の時代。当時の江戸の狂歌本には数多くの栃木の狂歌師の名が残る。そして歌麿自身も「筆の綾丸」の名で狂歌をたしなんだ。狂歌の絆は、栃木と江戸と歌麿の心を結んだ。そんな想像もふくらむ。

■「金喜・善野喜兵衛」旧宅跡 MAP-1 る

狂歌師「通用亭徳成」。歌麿の多くの作品に登場。
栃木町の経済の中心人物の人。



「湯上がり化粧美人」
(東京国立博物館蔵)
出典: 東京国立博物館 画像検索
※左上は: 住吉浦近の狂歌

■「渡邊源左衛門」旧宅跡 MAP-1 ほ

狂歌師「田畠持麿」。栃木の町年寄。四方赤良(蜀山人)の作品添削状が市内に残る。江戸文化との交流の一端を垣間見る。

■「森小兵衛」旧宅跡 MAP-1 と

狂歌師「住吉浦近」。屋号「釜屋」。出自は近江商人。酒造業。

■近龍寺(きんりゅうじ) MAP-1 へ

浄土宗。境内墓所に「通用亭徳成」と「住吉浦近」の墓がある。

■諫訪神社(磯山) MAP-2 れ

拝殿上部に狂歌歌額を掲出。栃木町近隣で多くの狂歌師を輩出した軌跡を見る。

栃木で発見された 貴重な肉筆画

大作「雪」「月」「花」の三幅は現在、栃木市を離れている。しかし、数少ない歌麿肉筆画の中で、「女達磨図」「鍾馗図」「三福音の相撲図」の肉筆画3点を市が所蔵。歌麿が栃木滞在中に商人の依頼に応じて筆をとったもの、と推察されている。

■栃木市立美術館 MAP-1 り

旧栃木市役所跡地。令和4年度開館予定。上記の肉筆画を含め、市所蔵の美術品を展示。



■巴波川(うずまがわ)・ 栃木河岸(とちぎかし) MAP-1 か

通用亭徳成の狂歌が添えられた歌麿の「杭打ち図」。この川の河岸を題材としたものか。

■廣泉寺(こうせんじ) MAP-2 そ

「女達磨図」の箱蓋裏に『互楽堂蔵図』の署名。廣泉寺の片柳俊助の墓の台座に「互楽堂」の刻名。

■太平山神社(おおひらさんじんじや) MAP-3 よ

二代歌麿作の狂歌奉納額「小野小町図」が現存。

生年は宝暦3年(1753年)から宝暦8年(1758年)頃ではないかと推察される。出生地は不明だが、江戸以外に、栃木出生説、京都出生栃木成長説などもこれまであげられている。狩野派の絵師鳥山石燕の門人として北川豊章と名乗り、安永4年(1775年)挿絵を描く画工としてデビューした。その後、天明元年(1781年)から「歌麿」と号し、版元鳶屋重三郎のもとで数々の狂歌絵本を手がけ頭角を現す。寛政年間(1789~1801年)にはいると画期的な美人大首絵を発表し、美人画家としての地位を確立。歌麿人気が江戸で高まると同時に、江戸幕府は、世を乱すものとして歌麿の絵に制約を加えたが、歌麿はそうした圧力を判じ絵などで巧みにかわしながら美人画を描き続けた。この天明年間(1781~1789年)から享和年間(1801~1804年)にかけて歌麿は、何度も栃木を訪れたと考えられる。文化元年(1804年)「豊臣秀吉」を題材にした作品が幕府の逆鱗に触れ、手鎖50日の処罰を受ける。その心労と過労のためか、文化3年(1806年)歌麿は54歳で没したとされる。墓は世田谷区北烏山の専光寺にある。

※内容に関しましては、一部検証中の事項がございます。あらかじめご了承ください。

栃木市散策ガイドアプリ
「蔵ミュゼ」で
歌麿ゆかりの地についての
音声ガイドを聞くことが出来ます。



問い合わせ: 栃木市 蔵の街課 TEL: 0282-21-2573

発行: 歌麿を活かしたまちづくり協議会

※令和3年4月現在

歌麿と栃木 散策絵図



喜多川歌麿「女達磨図」部分
(栃木市立美術館蔵)
寛政2~5(1790~93)年頃

ようこそ、蔵の街栃木へ。不世出の美人画
浮世絵師喜多川歌麿。誰でもが知っている
歌麿だが、彼の生涯には謎が多い。生まれた
年や場所もはつきりしていない。
そんな謎多き歌麿が、江戸以外にただ一つ
ゆかりをもつ地が、ここ栃木。はたして、歌麿
はこの地に生を受けたのか。あるいはこの
地で幼少を過ごしたのか。歌麿はこの地で悩
み、あの大作を描き上げたのだろうか。夢は
ふくらみ、謎は深まる。先人たちが追いかけ
てきた歌麿と栃木をむすぶ縁。
この絵図を片手に、歌麿と栃木をつなぐ
「三つの縁」を解き明かし、大作「雪」「月」「花」三幅を味わいながら、蔵の街で
歌麿の世界をご堪能ください。

江戸時代。栃木の街は巴波川(うずまがわ)の舟運で、米、酒、醤油、材木などをあつかう商業都市として繁栄。有力商人は栃木と江戸、両地に屋敷を構えていた。この地には、江戸の経済人、文化人と積極的に交流していた記録が今も残されている。歌麿もそのなかの一人だったのだろう。



「五海道其外延絵図 中山道例幣使道分間延絵圖 卷第3」
(東京国立博物館蔵)
出典: 東京国立博物館 画像検索より部分使用

■神明宮 MAP-1 は

栃木の地名はこの宮からとの発祥説がある。歌麿と同時期の江戸の文化人龜田鵬斎の石灯籠が境内に。奉獻者名には栃木の商人たちの名が。



神明宮

■念仏橋(現・幸来橋)

MAP-1 わ
かつての栃木町の西の木戸。明治になって改名。

肉筆画の大作 三幅「雪」「月」「花」

明治12年(1879年)、市内の定願寺(じょうがんじ)で三幅が展示された記録が残る。所蔵者は善野伊兵衛(屋号: 釜伊)といわれている。通称「雪」「月」「花」と呼ばれる作品の「月」、「花」はアメリカの二つの美術館が現在所蔵。「雪」は箱根町の岡田美術館の収蔵となっている。この三幅がいつ描かれたのか、栃木で描かれたのか、江戸で描かれたのか、謎は残る。



喜多川歌麿「深川の雪」高精細複製画(原本: 岡田美術館蔵)
寛和2~文化3(1802~06)年頃 縦198.8cm×横341.1cm

■定願寺(じょうがんじ) MAP-1 い

天台宗。明治12年、本堂にて「雪」「月」「花」三幅展示。



喜多川歌麿「品川の月」高精細複製画(原本: フリーア美術館蔵)
天明8(1788)年頃 縦147.0cm×横319.0cm

■「釜伊」跡 MAP-1 ん

明治時代に三幅を所蔵していたといわれる善野伊兵衛家。



喜多川歌麿「吉原の花」高精細複製画(原本: ワズワース・アーセニウム美術館蔵)
寛政3~4(1791~92)年頃 縦186.7cm×横256.9cm

■岡田記念館 MAP-1 ち

創業550年。江戸期には畠山家の陣屋跡。定願寺での三幅の展示目録を所有。



喜多川歌麿「吉原の花」高精細複製画(原本: ワズワース・アーセニウム美術館蔵)
寛政3~4(1791~92)年頃 縦186.7cm×横256.9cm

■片岡写真館 MAP-1 た

明治2年創業の老舗写真館。三幅を撮影。「月」の乾板を所有。